

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念である「老いても障害を持っていても自分らしく当たり前に普通に暮らしたい。」を基本にホーム独自の運営理念を定めている。日々のケアの中で理念を実行。実践できるよう利用者主体の考え方で、気づき、目配り、を第一に生活支援パートナーとして「なかよくくらすう」を合言葉に社会や家庭復帰への自立支援をしている。	○	地域密着型サービスとして、理念を常に実行。実践できる様日々の事例を通して一つずつ丁寧に取り組みたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議等で理念を一人一人が声に出して話す。	○	更に日々の現場でも声に出して話していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	老人会、自治会(近所の店等含)、保育園、高校等にホームの理念や取り組みを記載したホーム便り、パンフレット等で内容の理解をして頂ける様説明会を継続している。	○	更に説明会の回数を増やしたい。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の生活の中通勤、買い物、散歩等時元気で明るい挨拶を第一にコミュニケーションをとっている。	○	更に元気で明るい挨拶を継続したい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会、老人会の行事等、地域活動に参加しグループホームの説明の場を作っている。	○	更に積極的に行動していきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会議時利用者への支援を基盤に地域貢献について話あっている。	○	話あった結果を実行。実践し更に地域に貢献したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム全体の幸せと地域貢献に向けて具体的に内容を把握し改善に取り組んでいる。	○	更に細かな改善に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容を管理会議、職員会議、ケース検討会で報告し話しあっている。	○	更に継続していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便り、パンフレットを持って行っている	○	定期的に窓口を訪れ口頭で報告したり、ホーム便り等を持って行ったり、見学に来てもらったりしたい。又市町村職員も参加する研修会等で報告、発表等をしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関する外部の研修会に参加し、伝達講習を行っている。	○	今後とも外部の研修会に参加し内部でも研修会を継続し、いつでも制度の活用に備える。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する外部の研修会に参加し、伝達講習を行っている。	○	虐待を見過ごさないよう日々の介護現場で更に徹底して行く。
	4. 理念を実践するための体制			
	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利・義務を契約書、重要事項説明書に明示し日常生活を送るうえでの必要事項について、入居時の説明の際に、入居者及び家族に説明し同意を得ている。入居後も利用者、家族への説明、話し合いを常に行っている。	○	更なる十分な説明を行い理解・納得を図っていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を日々の介護の中で気づき、目配りを第一にコミュニケーションが取れる様支援し、又御意見箱を備え運営に反映させている。	○	不満、苦情解決に向けて更にコミュニケーションを深めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来所の回数では2～3、4回/週の場合もある。	○	こまめに家族に連絡を取っているが、更に徹底したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話し合いをモットーにコミュニケーションを深める。	○	話し合いを徹底し気づき、目配りを第一によりコミュニケーションを図りたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケース検討会、外部、内部の研修会、実習等にて反映している。	○	是まで以上に意見や提案を聞く機会を設けたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整に努めている。	○	突発的な事以外での勤務交代の調整を更に充実して行きたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットの中で利用者へのダメージを防ぐ配慮として格差のない介護を提供するための異動は実施している。	○	マンネリ化防止対策を徹底して行きたい。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体として研修計画を作成し法人内の研修を受ける機会を確保している。	○	今後、初心者や中堅者の研修会を計画して行きたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の合同開催、相互訪問、見学等	<input type="radio"/>	更に研修会、相互訪問、見学等の充実
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員は業務上の悩み等を法人代表、管理者、他のユニットの職員、医療連携看護師等に相談できる。又外部研修の受講など外部の人と接する機会を設けたり休憩時間の確保ができる様工夫している。	<input type="radio"/>	今後も互助会の活用とともに、親睦回の回数を増やしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃からホーム等で職員、利用者と一緒に過ごす時間を必ず設け介護の質の向上に向けて、管理会議、職員会議、ケース検討会等においてお互いに意見を出しお互いが向上心を持って働けるよう努めている。	<input type="radio"/>	今後も多くの意見を引き出し更に向上して行きたい。
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族、居宅介護事業所、入院、入所施設等から情報収集、傾聴を行い、グループホームに適した入居対象者であるか法人代表者、管理者、計画作成担当者、医療連携看護師等で十分検討している。	<input type="radio"/>	初期の信頼関係をより一層築くため最大限の傾聴を重視して行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの情報収集の中で困っている事、不安な事、求めている事の傾聴を大切に全て介護を通して受け止める努力を心がけている。	<input type="radio"/>	今後も家族のケアも含めて一層の傾聴を重視して行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に遊びに来てもらったり、宿泊してホームの雰囲気を経験して頂き、他のサービス利用もふくめた対応に努め、その上で入居を決定している。	<input type="radio"/>	ホーム利用と他のサービス利用を更に検討し、本人、家族が必要としている支援を見極めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	個人差はあるが、顔なじみの関係を作っていく、数日の体験宿泊と自宅外泊を繰り返し徐々に馴染んで頂く。	<input type="radio"/>	信頼関係を速やかに築く努力を一層行いたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中での身体介護、家事援助等を介して行動し学んだり、支えあう関係を築いている。	○	常に真剣に優しく暖かく一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共有して行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所時等に家族も巻き込んだコミュニケーションとして会話、一緒に食事等心がけている。	○	家族会(ナークの会)を9月29日に設立し今後本人を家族と共に支えあう関係を一層築いて行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	前記同様会話等を等を通してのコミュニケーションで本人と家族とのより良い関係が築けるよう支援している。	○	ナークの会を定期的に継続する中でより良い関係を築いていけるよう支援して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が家庭で使っていた物、馴染んでいものを傍におき地域に於いてコミュニケーションを築いて行けるよう支援している。	○	馴染みの人や場との関係継続を地域の一員としてコミュニケーションを築けるよう支援を深めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームでの日常生活において介護のプロとして自覚をしっかり持ち利用者同士の関係を把握し利用者同士が関わり合い支えるように努めている。	○	ホームで現在行っている事をもとに益々前進し続けたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族には連絡をしその後の支援を大切にしている。	○	今後も関係を断ち切らない取り組み」を継続したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握を利用者本人や家族から出来るだけ聞きだしている。	○	利用者とのワンツーマンやフェイスツーフェイスの時間を出来るだけ持てるように努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○	利用者本人や家族からの聞き取りを機会あるごとに試みる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	○	利用者別の介護記録の総合化を図った。(基本情報、医療情報、薬説明書、熱計表、介護記録別に見出しを付け、見やすくした。)
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、関係者(民生委員、市町村、病院、他の介護事業者等)と話し合い、それぞれの意見等を反映した介護計画を作成している。	○	本人、家族はもちろん出来るだけ必要な関係者からの情報の把握に努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	利用者本人の心身の変化を見逃さず、さらにきめの細かい対応を図る。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	利用者個別の介護記録の総合化を図り、更なる介護計画の見直しに活かしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特になし		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア(整体コンサート)の受け入れ、地元の保育所、高校との定期的な交流会及び消防署との防災・救急救命訓練等の実施	○	今後、ボランティアの更なる受け入れと小・中学校との交流を拡大する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーを利用するための支援をしている。	○	引き続き、地域の他のサービスの活用を図る。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	地域包括支援センターとの更なる情報交換を強化する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得の得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	今後、看取りの介護に向けて24時間の医療連携の実現を図る。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	現在利用者の一部に限られているため、利用者全員に受診や相談できるような体制を図る。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携担当看護師により日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	○	医療連携担当看護師による定期的な研修会の開催と看取り介護の体制の検討。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時には、入院時、一週間後、二週間後等随時訪問し、主治医、看護師及びSWと情報交換や相談している。	○	日頃から、関係医療機関との連携に努める。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、出来るだけ早い段階から、医療連携担当看護師により本人や家族等ならびにかかりつけ医等と話し合い、職員全員で方針を共有している。	○	今後、重度化や看取りの介護に向けたマニュアル作りの検討。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携担当看護師を中心に、かかりつけ医や協力医療機関等との重度化や終末期に向けた支援について検討中。	○	かかりつけ医や協力医療機関の夜間の往診の実現の可能性
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを防ぐため、事前に家庭や病院等の訪問を行い、関係者との十分な話し合いや情報交換を行っている。	○	引き続き努力する。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	○	引き続きプライバシーの確保の徹底を図る。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるようにしえんをしている。	○	引き続き利用者の希望の表出や自己決定の支援に努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の日課はあるが、利用者個々の希望に沿って支援している。	○	引き続き、利用者個々の希望に沿うよう支援する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月1回理・美容師が来所し、利用者の希望に合わせている。また、いきつけの理・美容院を利用している人もいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、一人ひとりの好みや力を活かしながら、常に声かけをし、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	○	一人ひとりの嗜好の傾向をきめ細かく把握し、それらを楽しめるようにさらに支援する。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の状況に合わせて、排泄のパターンを十分に把握し、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、トイレ誘導を支援している。	○	一人ひとりの排泄のパターンをきめ細かく把握し、夜間についてもトイレ誘導をさりげなく支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴時間帯を決めているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	○	時には温泉施設の利用を検討する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるように、日中の活動を促し生活リズムを整えたり、寝つけない時は添い寝等の支援をしている。	○	今後とも、気持ちよく休息したり眠れるように、個室の環境の工夫(例、アロマテラピー等)を図る。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かして、共同生活のまとめ役、お世話役等の役割を担い楽しく過ごしている。	○	利用者のかって培った技術や趣味を活かして地域の文化祭等に出展、出品して参加する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人当たり一万円を上限に所持して、一人ひとりの希望や力に応じて使えるように支援している。	○	一人ひとりの希望や力に応じて、今後所持金限度額の上限について再検討を行う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、日中の散歩、買い物、喫茶店、ドライブ、外食、弁当を持って戸外に出かける等の支援をしている。	○	更に、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように歩行困難な方でも車や車椅子等を利用し、戸外へ出ることを積極的に支援したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段は行けないような場所、そーめん流しの参加や菖蒲、ミヤマキリシマ、紅葉、桜等の見物の機会を支援している。	○	今後、利用者と家族も含めた一泊旅行を検討したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	○	今後は、年賀状やクリスマスカード、暑中見舞いを出すための支援を行いたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人たちが、いつでも気軽に来所できるように、湯茶等の用意やフロアや居室の整理、整頓の支援をしている。	○	職員の接遇態度のより一層の向上を図る。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践をしている。	○	引き続き、身体拘束をしないケアの実践を徹底する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段の柵を除いて鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。	○	今後とも鍵をかけないケアの実践に取り組む。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜を通して同じ空間で記録等の作業を行い、利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	○	引き続き、利用者の安全確認を最優先課題とする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品や道具については、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	○	引き続き、注意の必要な物品や道具の保管管理の徹底を図る。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤薬、誤飲、誤嚥、行方不明、火災予防、救命救急等の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	誤嚥のリスクの高い利用者の食事支援や口腔ケアの方法、防火素材の活用や避難シューターの設置の検討を図る。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を、医療連携担当看護師や消防署と連携し定期的に行っている。	○	更に、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、AED購入の検討も含め、すべての職員が対応できるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や自身、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、地元自治会や老人会も含めた地域の緊急連絡網を整備し、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	○	事業所だけの訓練だけではなく、地域住民の参加協力を得ながら、避難訓練を更に定期的に実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりについて把握しており、家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、利用者の表情を明るくし行動の障害を少なくしている事を事業所の取り組みとして丁寧に説明し理解を得られるよう努めていきたい。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異常の兆候に築いたら速やかに報告しあい早期対応に結びつける行動が日常的に行っている。発見や対応の遅れが見られたケースは最近ない。	○	利用者の普段の状況を職員は把握しており様子の変化が見られたときは、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけ医療連携担当看護師と常に話し合い状況により医療受診に繋げていくよう更に支援していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する薬の目的や副作用、用法や用量について全職員が理解し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	○	更に24時間体制の協力医療機関との連携を図れるようにしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、家族とも相談しながら多めの飲食物の工夫や体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	○	便秘予防に向けて、一人ひとりに応じた自然排便を促す為食材やメニューの工夫、活動状態等を見直し継続的に予防・対応をしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや匂いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をし歯科医師会等が主催する研修会に職員が参加している。	○	口の中を他人に触られる利用者の気持ちに配慮しながら、肺炎を予防するきちんとした技術を身につけるようにしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が、カロリーの過不足や栄養バランス水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりに状態や力、習慣に応じた支援をしている。	○	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録しているが、栄養摂取量をだまかに全職員が情報を更に共有していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	主な感染症(インフルエンザ、疥癬、白癬、MRSA、結核等)に関して医療連携看護師等に、相談し事業所として予防や対応の取り決めがあり、かつ実行している。	○	感染症に関して情報収集を行い、早期発見早期対応に更に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員一人ひとりの考え方に違いがあったり実行にズレが生じないためのチェック表を作成し台所の徹底した衛生管理、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	ふきん等は、毎晩漂白し一層の清潔を心がけていきたい。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲の工夫として草木、家庭菜園等、利用者や家族、近隣の住民等の視点に立って違和感や威圧感が無いよう配慮している。	○	近所の人立ち寄りたときに荷物を置いて一息つけたり、庭先でお茶を飲めたりするスペースを造っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレ等)は安らぎ居心地よく過ごせるように利用者にとって不快な音や光が無いように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	○	フロアの飾り付けや家具の配置は今後利用者と一緒に考えて、利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室でひとりになれるスペースを確保し、共用空間の中には、ひとりに慣れたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	○	ウッドデッキ等に、椅子とテーブルを置きくつろげるスペースをつくっていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等、持ち込んで頂き居心地よくプライバシーを大切に安心して過ごしていただくため、鉢植え、草花で癒しの空間をつくる工夫をしている。	○	部屋全体が落ち着ける空間作りに防災カーペット等にも細やかな配慮をしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者にとって快適な温度・湿度調整は温度計湿度計を目安に気なる匂いや空気のだよみが無いよう、換気に努め温度調節は、ペアガラス等外気温と大きな差が無いよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	○	冷暖房は常温±5度を基本に、外気との温度差を更に調節していきたい。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的なバリアフリーや一律の福祉機器等での対応ではなく生活の場として建物内は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が出来るよう工夫している。	○	身体機能の変化等に考慮し更に利用者の「現在の状態」に応じて生活空間で転倒につながる原因がないか常にチェックしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を見極めて、不安や混乱失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	○	状況に合わせて環境整備に努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園・火鉢での金魚、メダカ飼育植木の手入れやみずやり、洗濯物や日向ぼっこ等が楽しんだり、活動できるよう活かしている。	○	戸外スペースを活用して外気浴を楽しむ等の心身のリフレッシュを更に高めていきたい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない